

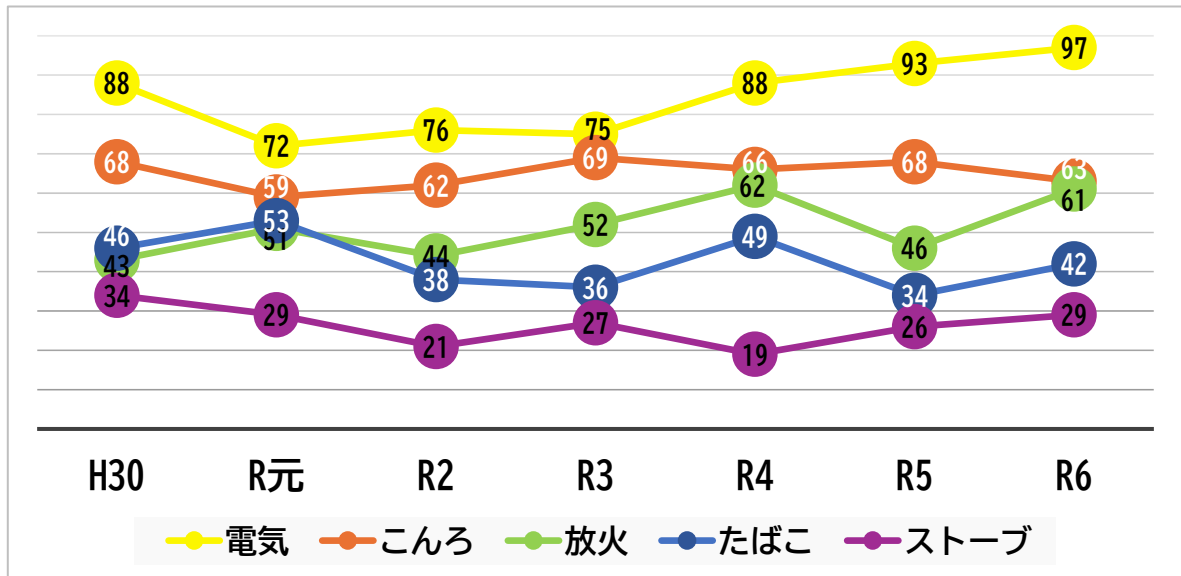


電気火災を防止しましょう！



電気火災は、延長コード、家電製品、住宅や車の配線関係など、電気が関係するものから出火した火災を言い、札幌市では7年連続で火災原因の1位となっています。

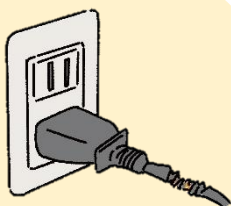
【過去7年間の火災原因別の推移】※上位5つ



電気は、私たちが暮らすうえで欠かすことのできない、身近で大切なエネルギーの1つですが、普段、何気なく使っている延長コードや家電製品なども、ちょっとしたことで火災となる危険性があります。

ここでは、火災が多い電源コードと増加傾向にあるリチウムイオン電池の火災予防方法をお伝えします。

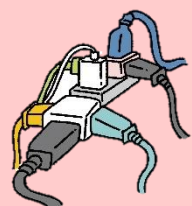
【電源コードからの火災を防ぐ5つのポイント】



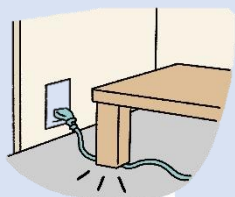
・コードが傷んだものを使わない。



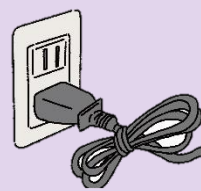
・コンセントにほこりを溜めない。



・たこ足配線をしない。



・コードを重い物の下敷きにしない。



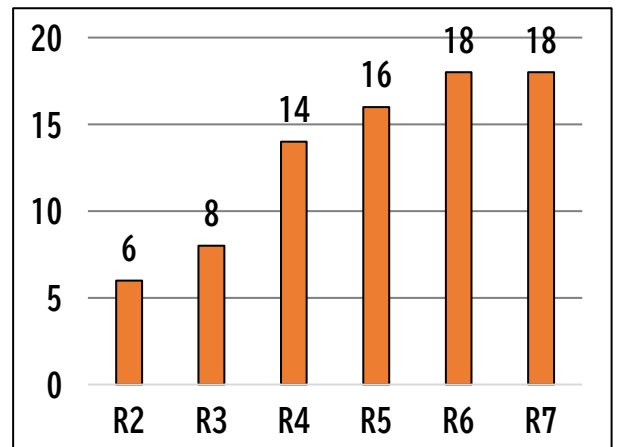
・コードを束ねて使わない。

リチウムイオン電池の火災が増加中！

リチウムイオン電池は、正極（+）と負極（-）の間をリチウムイオンが行き来することで、繰り返し充電・放電ができる電池です。

乾電池に比べ、小型・軽量・大容量といった特徴があり、モバイルバッテリーやスマートフォン、ノートパソコンなどの身の回りの製品にも多く使われていますが、近年、リチウムイオン電池の火災が増加傾向にあります。

【札幌市におけるリチウムイオン電池の火災件数の推移】



※R7は、6月30日までの速報値

リチウムイオン電池が使われている製品の一例



火災に至る要因は、メーカー指定の充電器やバッテリー以外を使っていたこと、落下などの衝撃で壊れたものを使用していたこと、製品を分解・修理などをしていたことなど、様々ですが、火災危険がないか日常から確認しておくことが重要です。

【リチウムイオン電池の火災を防ぐ5つのポイント】

- ☐ 充電器やバッテリーはメーカー指定の純正品を使用する。
- ☐ 定期的に深いキズや変形、焦げ跡などの異常がないか確認し、異常を発見した場合は使用せず、不燃性の缶等に入れ、販売店に相談する。
- ☐ むやみに分解・修理・改造しない。
- ☐ 消費者庁やNITE（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）のホームページでリコール情報を確認する。
- ☐ ルールを守って適切に廃棄する。



消費者庁リコール情報サイト
二次元コード



NITE SAFE-Lite
二次元コード